

令和6年11月1日

江津市議会 議長 藤間義明 様

江津市議会議員
森 脇 悦 朗

視察研修成果報告書

下記の通り成果を報告します。

記

1. 個人研修

(1) 研修日時 令和6年10月9日(水)

13:00～16:30

10月10日(木)

9:00～11:00

(2) 研修先 岩手県盛岡市

トーサイクラシックホール岩手

(3) 研修内容

第19回全国市議会議長会研究フォーラム
大会テーマ「主権者教育の新たな展開」

(4) 研修概要

【パネルディスカッション】「地方議会の課題と主権者教育」

① コーディネーター：井柳 美紀 氏（静岡大学人文社会学部法学科教授）

- ・地方議会の課題として投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りが顕著になったことから、議長会による主権者教育の推進に関する決議を採択。

- ・具体的には、出前講座や模擬議会など、議会自らが主体的に行う主権者教育の取り組みに支援を講ずる。

② パネリスト：土山 希美枝 氏（法政大学法学部教授）

- ・「誰がための主権者教育か」高校生議会を主権者教育と議会が称するのは、教育を軽く見ていないか。

- ・高校生議会が「高校生を議会が教育する」場なのか、「若き市民の市民参加」の場なのかで、議会の向きあい方は変わってくる。

- ・若き市民の声をどのように受け止め、政策に活かすのか、議会には応答する責任があり、その対応が若き市民の政治に対する信頼に直結する。

③ パネリスト：越智 大貴 氏（一社 WONDER EDUCATION 代表理事）

- ・若者は、政治や社会をどうとらえているのか？→関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っている。

- ・学校における主権者教育の現状→政治的中立への過度な配慮があるが、それは学校が悪いわけではない。



・13年間の主権者教育の取り組みについて→政治“家”との交流は、子ども達の政治意識の醸成に大きく影響する。

④ パネリスト：渡辺 嘉久 氏（読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局）

・「政治とつながる」とは？→「未来とつながる」「政治を考える」＝「未来を考える」→「自分の未来を創造する」

・投票は「こうありたい」という未来を実現する。

・10代20代は子育てに関心がある。60代は社会保障に関心がある。様々な世代、職種の人を集めてワークショップを開催することが必要。

⑤ パネリスト：遠藤 政幸 氏（盛岡市議会議員）

・次代を担う高校生が選挙・政治、身近な地方行政への関心を高めることを目的に高校生議会を実施→「市政に関心をもった」「議会の役割が理解できた」との感想

・「もりおか mirai おでかけミーティング」・・・市議会が大学に「おでかけ」し、大学生と意見交換を行う。

【課題討議】「主権者教育の取組報告」

① コーディネーター：河村 和徳 氏
（東北大学大学院情報科学研究科准教授）

・政治に参加する方法・・・「署名する」「投票する」団体をつくり、社会に働きかける「陳情活動」デモの実施
・「社会を知る」という視点でのアプローチ・・・民主主義、自由主義の仕組みを知る。

・「選挙に参加する」という視点でのアプローチ・・・投票する人、立候補をして当選を目指す人、選挙管理をする人、そしてそれらを伝える人（メディア）
・議員と会うだけでも意味がある・・・子どもたちにとって普段接している大人と違う場として機能する。

② 事例報告者：白鳥 敏明 氏（伊那市議会前議長）

「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」

成果：1. 高校生からの意見提案として意見交換の場を高校生から提案しては

2. 学校に市への意見箱をおいてはどうか

3. 高校生による請願提出→全会一致で採択

4. 高校生からの要望を執行部へ提出

課題：1. 議会では SNS をもっと活用すべき

2. 議事録は活字が多く読みやすく

3. 意見交換会を定期的に行い、多くの意見をくみ取ってほしい

他の取組：中学生キャリアフェスへの参加

③ 事例報告者：諸岡 覚 氏（四日市市議会議員〈第83代議長〉）

「ワイ！ワイ！GIKAI」の開催

・各常任委員会が地域の中学校・高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換会を開催



- 成果：1. 開催校の生徒が授業の一環で市議会を訪問、報告会と一般質問傍聴
2. 高校生議会の開催
3. 市議会だより＃こども号の発行

今後の展開：各種団体・各種労働組合など制限を設けず、幅広い対象との交流を目指す。

④ 事例報告者：服部 香代 氏（山鹿市議会議員）

小学校で「シチズンシップ教室」

伝えたいこと：市議会について知る・議員の仕事を理解する・選挙の意義や投票の大切さを知る

実施内容：本物の投票箱を使った投票体験・絵本「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」の貸し出しなど

波及効果：議会・・・分かりやすい言葉で伝えること・連帯感が生まれた

市民（ボランティア）・・・議員の努力が見えた・選挙の意義や議員の仕事を理解できた

図書館・・・選挙関連の童話コーナーを設置・貸し出しも多く好評

(5) 所感

今回のテーマである「主権者教育」については、江津市議会でも取組んでいるがあまり目的について考えていなかったと思う。表向きには、2015年の選挙権18歳引き下げを契機に議員のなり手不足の課題から、若い世代に議会に関心を持ってもらうことだと思う。しかしながら、土山氏の「誰がための主権者教育か」の問題提言は、「議会」が「主権者教育」していると称するのをやめませんかと言われ、印象的であった。確かに議会・議員が何をしているかなど知識を押し付けていたかもしれない。大事なのは、若い人から出てくる意見をどう受け止め、政策提言に活かせていけるかだと思う。



また、他の議会の取組みは参考になった。特に、伊那市が行っている「中学生キャリアフェス」は、市内の中学2年生が集まり、各ブースにおいて地域の企業や団体を知り、将来の進路について考える学びの場であり、伊那市議会もブースを設け議員と懇談できる活動を行っている。こうした取組みは、議会を知ることだけではなく、地域内の企業を知ることができ、将来の進路のきっかけづくりとしての位置付けで本市でも取組んでみる必要性を感じた。

以上